

尾崎行雄と相馬雪香の生き方に学ぶ 震災から5年

3月13日、51期生第三回櫻華塾が開催されました。

最初に小山副塾長より、東日本大震災から5年、一冊の会が被災者と苦難を共にして活動を行ってきたこと、特に雪香プロスパーポローニア植樹の地である閑上地区では、一度は枯れそうになった雪香プロスパーポローニアが雑草の中に埋もれながらも芽吹き、元気に育っていったことが紹介されました。心の復興はまだまだこれからとの話しも聞きます。ハード面とソフト面、両方からの復興を現地に寄り添い続けていく大切さを感じました。

前回の塾の感想は、大先輩の新井明子（みょうこ）さんと一番若い瀬澤伸子さんが発表しました。瀬澤さんは3回連続の発表です。また、FAWA 事務局長の三坂さんより、今年のFAWA シンガポール大会のアジェンダが発表されました。今回のテーマは「人道の未来：遺産の継承」という壮大なものです。9/29～10/3の3泊4日※のツアーとなりますので、皆様ぜひスケジュールを調整の上、ご参加ください。（※1日でも2日でも参加可能です）

3月8日は国際女性デーでした。婦人参政権要求第一号の楠瀬喜多のDVDが嬉しいニュースを運んでくれました。大槻会長と小山事務局長が3月8日「女性参政権70周年クォータ法案を成立させよう」に参画された折、フジテレビの安藤優子キャスターに楠瀬喜多のDVDをお渡ししたところ、大変感動されていたとのお話があり、そのナレーターを担当した倉持さんがDVD作成時の感想を述べられました。

大槻会長から、「二度と同じことをやらないのが一冊の会」をモットーに、3月3日ひな祭りには、本当に思いのあるメンバーが一冊の会事務所に集まり、ひな人形と赤松良子・一冊の会筆頭最高顧問のお写真を飾り、ぼんぼりの代わりにクォータ制の旗を翻し、尾崎行雄全集12巻を並べ、クォータ制について議論をした様子をお話くださいました。また、村岡さんの感想から、先輩が若者の「伴走者」に徹して下さっていることへの感謝の思いを紹介され、若手一同身の引き締まる思いでした。続けて、尾崎行雄の人権紙芝居(下)の吹き込みが終了し、上・下巻併せてのナレーターを担当した村岡さんからも作成の様子と思いをお話くださいました。



また、婦人の日（婦人週間）を経て、今の国際女性デーに至るまでのお話、そして国際女性デーにちなんでミモザの花と同じ黄色の布に東北被災者へのメッセージを書くハンカチ支援プロジェクトの発表がありました。黄色は民主主義のシンボルカラーでもあり、太陽・光を表す色でもあります。

東日本大震災の被災者達の心の支援に繋げようとスタートしたこのプロジェクト。自立して行動を開始した支援者達は黄色い布に東北被災者へのメッセージを、被災者達はピンクの布に支援を受けてのメッセージを書き、その布をロープで繋げるチャレンジです。

支援者側の寄付金は、東北被災地に植える復興記念樹・雪香プロスパーポローニアの手入れにかかる費用（肥料代等）に使われます。今本当に求められている支援は一体何なのか、被災地に100回の支援を行っている一冊の会だからこそ感じる現地の声を元に、物資・インフラの整備などから移り変わり、「今こそ心の支援が大切」との思いが込められているのがハンカチ支援プロジェクトです。3月15日には101回目の支援へと大槻会長と小山事務局長が出発されました。今回は幸せなことに加茂昭夫事務局長が車の運転を自ら希望して担当くださいました。有難いことです。留守担当の私達は無事故を祈るばかりでした。

今回の塾では、石田理事長にご講演いただきました。タイトルは「尾崎行雄と相馬雪香の生き方に学ぶ」です。一部抜粋してご紹介いたします。

憲政記念館・尾崎行雄応接室で学ぶとはどういうことか、その為にはまずどうやってこの憲政記念館ができたのかを知らねばなりません。設立に賛同する者は多くてもお金は集まらないのが世の常。衆参両議員、地方議員、経団連の支援を受け、天皇陛下からの御下賜金を賜り、松岡駒吉元衆議院議長の呼びかけに応じた全国の青少年からの寄付によって建設されました。多くの人の思い、特に全国の青少年の思いがあって、民主主義政治を説いた尾崎の精神を語り継ぐ憲政記念館（旧尾崎記念館）があるのです。

そしてまた、尾崎行雄の手段としての「二つのフセン（普選と不戦）」を紐解くと実に現実的で合理的な尾崎行雄の一面が見えてきます。時には国民の不満のはげ口として、ある時には世界の流れを読む中で、現実的で合理的な手段を唱えた尾崎行雄。その根底にあったものとは、「国の存続繁栄と国民の幸福」。国の存続繁栄なくして国民の幸福はなく、国民の幸福なくして国の存続繁栄たりえず。この一つの目標にひたすら邁進したのが尾崎行雄でした。そして、その意志を受け継ぎ、やりつづけたのが三女の相馬雪香。

東日本大震災から5年、心を届ける「心の復興」が大切。一冊の会が本領を発揮する時であり、ここからが正念場です。相馬雪香の「利他の心」とは自分の欲を全て排除しなければならないのではなく、他の人のことも我がことのように思い考える心。相馬雪香の元に多くの方が来訪される中、全ての方の意見に賛同し協力はしなかった。「本気の心」を感じた方とだけ「一緒に頑張りましょう」と手を取られた。本気の心を今も燃やし続けているのが大槻会長と小山事務局長です。何をやるにも本気。震災支援も、単なるパフォーマンスや、一過性の物ではなく継続し続けている現在進行形です。その本気の心が石田理事長や塾生、知事や市長を動かし支援の輪を広げています。

尾崎行雄も相馬雪香も「世のため、人のために常に考えて行動しているか？」と自らに問いながら、行動し続けました。では、今の自分には何ができるでしょうか。皆さん一人ひとりが考え、自分自身に問いかけてみてください。

自分に出来ることは何か。今何が必要とされているのか、それを問い続けることは、簡単なようで難しいことです。でも一冊の会では、「まずやってみよう、見てみよう、聞いてこよう、語り合おうよ、友好の輪」「1人10人の友達作り、華づな作り」が合い言葉。友好の華づなで、東北被災者へのメッセージをつなげ、10代から80代までそれぞれのチャレンジを続けて参りましょう。

最後に、平成28年度 東京都内での普通救命講習の案内がありました。毎月都内のどこかで講習が開催されています。防災への意識を高め、命を守ることに直結する講習です。皆様お忙しいとは思いますが、いざという時の為の備えとして受講いただけますと幸いです。

編集・文責：大槻、小山、瀧川

